

八重山の交通が変わる！

「MaaSの実現による新たな交通サービスの実証開始」

1. MaaSとは

みなさんは、「MaaS」（マース）といふ言葉を御存知でしょうか？

MaaSとは、『Mobility as a Service』の略で、出発地から到着地までの移動に対し、様々な移動手法・サービスを組み合わせて1つの移動サービスとして捉えるもので、ワンストップでシームレスな移動が可能になるものです。

これだけでは少しわかりづらいと思うますが、スマートフォンを用いて、出発

- ・国や自治体がMaaSを交通だけでなくまちづくりなど各政策に活用する段階
- ・複数サービスのパッケージ化、定額制など事業者間連携が進んだ段階
- ・情報検索に加えて予約・支払いもまとめてできる段階
- ・複数交通モードの経路や運賃等の情報を検索できる段階
- ・単体バラバラのサービスとして提供されている段階

※Jana Sochor他“*A topological approach to Mobility as a Service*”(2017)を参考に筆者作成

地から目的地までの移動手段の検索・予約・決済を一括して行えるサービスと言えれば、少しイメージは湧くでしょうか。

そういえばと思われた方もいるかもしれません、我が国においても、既に身近なところでMaaSサービスは提供されています。MaaSにはレベルがあります（図表1）、経路検索で使われているGoogleやジヨルダンなどはレベル1に当たります。

フィンランドのWhim

一方、海外では、レベル3のサービスが既に提供されています。フィンランドのヘルシンキ市においては、2014年に域内の自家用車を2025年までにゼロにする画期的なロードマップが示されました。2017年には、様々な移動サービスを一括で検索・予約・決済できるアプリ「Whim（ウイム）」がスタートしています。この「Whim」の特徴は徹底した「利用者目線」であり、

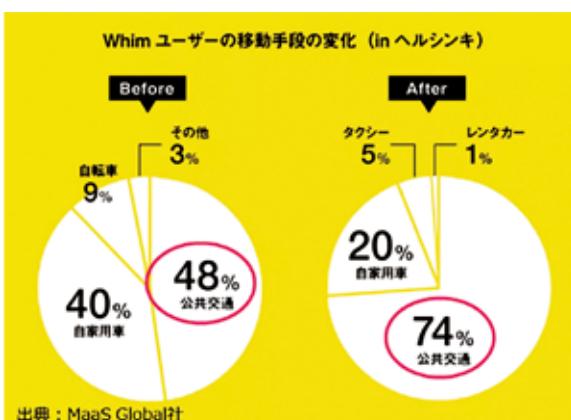
- ①マルチモーダル（鉄道、バス、タクシーなどの公共交通に加えてレンタカー、シティサイクルなども対象）
- ②都度払いも可能だが、定額制で使い放題のプランなど複数プランが設定されていること

③検索・予約・決済がスマホ1つで可能で事前決済・キャッシュレスで手間が掛からないこと

から、公共交通の利便性が格段に上がっています。

その結果、Whimユーザーの公共交通機関の利用シェアが増加している（図表2）ほか、沖縄でも問題となっている渋滞の削減、公共交通機関の運行効率化などにも資するものとされています。

図表2 Whimの効果



図表3 MaaS導入による変化（イメージ）

«MaaSなし»



- ①MaaSが利用者の「エージェント」となり、利用者にとって動線が1つになります
- ②MaaSが導入されることにより、MaaSが導入されることにより、イメージ化してみました。
- ③MaaSが利用者の「エージェント」となり、利用者にとって動線が1つになれる

«MaaS（レベル3+α）あり»



②複数サービスのパッケージ化・定額制などが実現しやすい

③交通以外のサービスとの連携も可能になる

など、利用者利便の向上が期待されます。

これにより、人々の外出や旅行など移動に対する抵抗感が低下することで、移動・交流意欲が高まり、健康が増進され、まちや地域全体が活性化し、豊かな生活を実現することが目指すところです。

2.八重山MaaS化事業

新モビリティサービス推進事業

国土交通省においても、MaaSを推進するべく、今年度「新モビリティサービス推進事業（補助事業）」を実施しております。

本年4月から5月に公募が行われ、公募51事業から、事業の熟度が高く、全国の牽引役となる先駆的な取組を行う19の「先行モデル事業」が選定されました。

沖縄からは、八重山MaaS事業連携体（構成員：TIS株式会社、沖縄セルラー、アグリ＆マルシェ株式会社、株式会社JTB沖縄、株式会社琉球銀行、（社）八重山ビジターズビューロー、石垣市、竹富町）が提案した「八重山MaaS化事業」が選定されました。

八重山の観光交通の課題

「八重山MaaS化事業」においては、年間140万人の観光客をターゲットと

して、観光型MaaSを実現することとしております。

八重山は、石垣市、竹富町、与那国町の1市2町からなる地域で、人口5.6万人（うち石垣市が5.0万人）、石垣島のほかにも、竹富島、来年度世界自然遺産登録が期待される西表島など観光客にとって魅力的な島々も多くあります。

公共交通としては、バス、タクシーに加えて、多くの離島が存在していることからフェリーが充実しているという特徴があります。

一方、観光客の多くがレンタカーを利用しており、レンタカー事故の増加、石垣港離島ターミナル駐車場の混雑などの課題が顕在化してきています。

具体的には、本年11月から来年2月まで、図表5のとおり実証を実施する予定となっています。これにより、スマートフォンがあれば、石垣空港に着いてから、離島も含めて、観光地やホテルに行く際、レンタカーがなくても快適に移動でき、旅行を楽しめる環境が創出されることが期待されます。

この時期に八重山へお越しの際は、是非本MaaSをお試し下さい。

図表4 八重山地域の交通状況



出典：石垣空港 Web サイト

図表5 八重山MaaS実証の内容

八重山MaaSサイト・アプリでのワンストップでの最適商品情報の提供および予約・販売機能の有用性の検証	
a.旅程に合った交通等商品の造成(パック含)	MaaSレベル3実証のため、定額制サービスや事業者をまたいだパック商品を造成(複数交通モード+商業クーポン等)、利用者検索内容等に応じ推奨・提供する
b.サイト・アプリでの連携された情報の提供	複数交通事業者をまたいで路線・商品サービス/時刻表/運賃/運行情報等を連携させ提示する(船舶、バス、タクシー等)
c.予約・決済、電子チケット発券機能の提供	上記aについて、事前の予約・販売およびデジタルチケット機能を提供する(安価・簡易に読み取可能)

出典：国土交通省 HP

(利用イメージ)



① 交通機関・施設に「スマートプレート」を設置 or 貼付

② 利用者が「スマートプレート」をQR読み取 or タッチ

③ スマートフォン画面にチケットが表示

④ 係員がスマートフォン画面を確認

運輸部企画室

098-866-1812